



News Letter

地域とつながるために

・ ニュースレター ・

Vol.10
2024年3月

CONTENTS

- ▶ ご挨拶 P1
- ▶ 【令和6年能登半島地震／支援報告】
透析医療施設への支援に
JHAT代表の山家敏彦特任教授が
現地にて活動 P1
- ▶ 【神奈川工科大学の地域貢献】
地域から学ぶその1
2023年夏、3.11東日本
大震災の被災地で..... P2-3
- ▶ 地域から学ぶその2
神奈川工科大学の周囲のこと、
「あつぎ」について知る..... P4
- ▶ 地域から学ぶその3
臨床工学科「医用機器概論」..... P4
- ▶ 地域から学ぶその4
ロボット・メカトロニクス学科
ユニット・ヒューマンサイエンスの取り組み ... P5
- ▶ 地域から学ぶその5
ロボット・メカトロニクス学科
共生社会実践への学生参画 P5
- ▶ TOPICS P4-5、P6

あいさつ

地域連携・貢献センター長
小川 喜道

年明けに能登半島地震に見舞われ、多くの被災者を出し、インフラの課題から長期化する避難生活となり、厳しい年の始まりとなりました。当大学では被災地出身の学生の皆さんへの配慮、そして、当大

学に本部のあるJHATによる支援活動を行ってまいりました。

2024年4月より、本学キャンパスの中央にKAIT TOWNが開設されます。そこに、当地域連携・貢献センターとeスポーツセンターが入り、地域の方々と活発な交流をしていくこととなります。地域の皆さまに親しみある、さまざまなアイデアを取り込める創造性豊かな場となるよう努めてまいります。

令和6年能登半島地震／支援報告

透析医療施設への支援にJHAT代表の山家敏彦特任教授が現地にて活動

Japan Hemodialysis Assistance Team

JHAT

in disaster

日本災害時透析医療
協働支援チーム

神奈川工科大学に本部が置かれている、日本災害時透析医療協働支援チーム（JHAT）は、被災された透析医療施設の1日も早い復旧と透析患者さんの治療が途絶えることのないよう支援する組織です。日本透析医会、日本臨床工学技士会、日本腎不全看護学会、日本血液浄化技術学会の透析医療関連の4団体で構成されています。今回、能登にて、被災地および周辺地域の調査、情報収集、支援物資供給センターの設置および運営、透析医療支援のための人員派遣などを行っています。

今回、多くの医療支援チームは、道路の崩壊、余震などにより被災地への支援がほぼ1週間遅れ、物資供給センターの開設も1月11日となりました。それでも、被災地域の先遣視察・調査、支援物資の配送と希望物資調査、透析医療施設へ約1000箱の物品配送（出務人数は延べ110名）、支援透析受け入れ施設への医療者派遣（2施設に対し、1月9日～2月3日まで延べ23名派遣）してきました。1月11日～1月26日までの支援物資供給センターへの出務人数：のべ110名、各施設への配送をお願いした企業は5社でした。（2月3日時点）

長い断水が続く中、簡易トイレ、下着（洗濯が出来ない）などの希望物資が大変多く、あらためて被災地の苦労が強く感じられました。



医療機器メーカーの協力にて医療物資供給センターを設置しました。



道路の寸断により、金沢から輪島などを往復するのに12時間を要したこともあります。



神奈川工科大学地域連携・貢献センター／地域連携災害ケア研究センターでは、防災・災害対策について、継続的に意見交換・情報交換を行っている厚木市役所を始めとした産学官民の関係機関との協働や、これからの地域連携の在り方や大学の役割について考えていきます。

2023年夏、3.11東日本大震災の被災地で…

「その時」には受け止めきれず、ひっかかりを覚え、何かの拍子にふっと思い出し、記憶のかけらを取り出し考える。繰り返し、咀嚼しては考える。そんな「その時」をこの夏に大学の授業として体験した学生の地域での取り組みを紹介します。

田邊 基子教授

所属：教職教育センター
担当講座：教育学、人文社会科学演習、
教職概論、教育実習Ⅰ・Ⅱなど。

学生への希望：「学生みなさんには、自分の
意志でさまざまな場所・人に出会うこと
で、道を切り拓いてほしいです。」

ホームページ神奈川工科大学教職課程支援教員採用試験対策室
(kait.jp) より一部抜粋

人文社会科学演習について(シラバスより一部抜粋)

東日本大震災・津波・原発事故と地域・子ども・学校をテーマに学び、希望者は課外で石巻市雄勝町フィールドワークを企画し実施する。最終的に成果報告会ないし報告集の発刊をめざす。

小川 久しぶりに、田邊先生とお会いした時に、「この夏に、フィールドワークを再開し石巻に学生2名と行ってきました。」と伺ったので、そのお話を、参加された学生さんからも、是非、聞かせていただきたいと思い、今日は時間を作っていただきました。田邊先生、竹中さん、壁谷さん、よろしくお願いします。

田邊 教職教育センターで教職課程の授業を主に担当しています。カリキュラム改革の大きな流れの中で、学生さんが専門以外に「自由にやりたいことをやれる科目」の設定が難しくなっています。そんな中で、専門科目ではないけれど、自分の意志で学びを創造して道を切り拓いて欲しいとの想いから、基礎教養教育センターの師玉先生・三浦先生と3名でこの演習を共通基盤科目として確保してきています。

私の授業は複数のワークショップで構成し、「ひとつのモノで自分を語る」「KAIT工房でモノづくり」「地域やキャンパスの再発見」「(希望者のみ)東日本大震災被災地フィールドワーク」などです。通年2単位の授業なので、学生から見ると(他の授業であれば4単位とれるため)、お得感に欠けるとは思います(笑)。竹中さんや壁谷さんも、そういったことを把握したうえで受講です。

元々は、私の研究活動として2011年の東日本大震災の発災後、宮城県石巻市雄勝町を「定点観測地」としてフィールドワークを毎年行っていました。震災から2~3年後からは学生も連れて通ってききましたがコロナ禍で途絶えてしまい、今年度は再開して初めての実施です。以前は、他大学とのコラボレーションで、児童の犠牲が多数出た大川小学校にその後残された子どもたちが間借りしていた小学校で、子どもたちとの交流をしたり大学生によ



情報学部
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
3年 竹中 誠人(左)
情報メディア科
3年 壁谷 侑汰(右)

雄勝ローズファクトリーガーデンとは

2011年3月11日の巨大津波で壊滅した石巻市雄勝町を復興するための“花と緑の力で”を合言葉に、被災住民が立ち上げた復興プロジェクト。被災者が亡くなった人とつながる慰霊の場として、また被災者と支援者が交流する癒しの場としてガーデンを運営するとともに、震災の教訓を伝える防災教育・語り部、写真掲示などの震災伝承活動を実施。

る特別授業を受け持たせてもらったりしていました。福祉や教育系が多い参加大学の中で、神奈川工科大学の特性を活かし「流れのふしぎ実験教室(協力:石綿良三先生)」や「科学教室(理科免許課程の学生を中心に)」の実施などを喜んでいただきました。今回は、本授業単独で行い、雄勝町の復興拠点になっている雄勝ローズファクトリーガーデン「花物語」(以下ローズガーデンという)でのボランティア活動と防災教育の受講をし、仙台市や石巻市の震災遺構となった3か所の小学校や駅舎などを2泊3日で廻ってきました。大川小学校では犠牲になった児童の保護者(語り部)のお話を伺うことができました。

小川 ざっと、概要をうかがいました。学生に、まずはなぜ、この授業を選択したのか聞いてみましょう。

竹中 情報ネットワーク・コミュニケーション学科(N科)の3年生です。この授業を履修したのは、シラバスを調べていて、石巻に行くと思ったからです。私は誕生日が3月11日なので、3.11については、気になって、いろいろと調べてきました。その日は小学校2年生の誕生日で、学校の帰りの会の時間に地震があって「あーあ、これでケーキ屋さんがお休みになって、ケーキが買ってもらえないなあ〜」って思ったことを覚えています。

壁谷 情報メディア学科(D科)の3年生です。この授業を履修したのは午前中の授業だけで帰宅するのは、もったいなかったのですが、月曜日の3限(13:20~14:50)に何か履修したいなど探して見つけました。2011年の3月11日は家にいました。被害にあった現地を見てみたいという思いはありました。

小川 東日本大震災と神奈川工科大学の関りについては「神奈川工科大学/災害支援関連ブログ (goo.ne.jp)」に記録されているので、時間があるときに、見てもらえると嬉しいです。また、その活動等を契機として、地域連携災害ケア研究センター (https://kait-ccd.jp/) が誕生したわけです。端折って紹介すると、神奈川工科大学は、発災後、本当に早期に支援を開始して、支援物資を送ったり、車椅子修理屋サークルが被災地で活動したりしてきました。今でも、継続できることを細々と続けています。また、誰も知らないと思いますが、被災地のスイセンの球根は学生グループ「ECO推進みどり」が育て、キャンパスで花を咲かせていました。そんなこともあったということも念頭に入れて、この夏の話をお聞かせください。

竹中 一番、心に残っているのは大川小学校の語り部のお父さんの言葉です。「ここは普通の、本当にごく普通の所だったんです。今は何もないけれど、街があって、小学校があって、特別ではない普通の生活がありました。」と伺ったあとに、実際に、小学生たちが逃げた経路を確認し、お父さんたちの体験、「生き埋めになった子どもたちを自分たちの手で掘り起こし、掘り出したときは無我夢中で、掘り出した子どもを抱き上げて家に連れ帰ろうとしたら、警察に『遺体は家に連れ帰ってはいけません』と言われて、家に連れていくことが出来なかった。」との体験を聞きました。そして、語りの最後に「自分たちの子どもが生き埋めになっていた場所が、今、皆さんが座っているこの場所です。」と話してくださり、正直、衝撃を受けました。

小川 言語化することは難しいのですが、このことは各々が自身で消化して受け止めていくしかないのでしょうけれど、ショック以外の何かを感じましたか。

竹中 一番初めに話を聞いた時は衝撃的で、その時は衝撃が大きくて考えがまとまらなかったのですが、落ち着いて考えてみると、日常が安全だと思っていても、人は唐突に命を奪われることがあり得ることを実感しました。具体的な行動がとれるような意識を持つことが必要だと思いました。

壁谷 3・11の時、私は小学生で、家の中にいて大変なことが起きているんだなと思ったけれど他人事でした。実際、石巻に行くまでは他人事でした。石巻で、震災直後に大川小学校の先生や地域の人の多くは「ここは安全です」と言っていたそうです。先生が安全だと言っていたところが大きな被害にあって…。いつ、災害にあってもおかしくないのだと実感しました。

小川 凄く悲惨な事実を突き付けられてしまっているのかなと思います。災害で日常が崩れることを目の当たりにして…。その次のことは考えられますか。フィールドワークに行ってから、2ヶ月経ったのだけれど、今、考えていることはありますか。

神奈川工科大学では、産官学民の取り組みを継続しています。2023年12月から、厚木市消防署と連携して学生や地域の方を対象とした応急手当講習会を開始しました。防災意識の醸成や非常時に役に立つ知識、スキルの獲得による災害対策、地域貢献を目指しています。



竹中 ローズガーデンで防災について学んだことが印象に残っています。防災は日頃から、自分のこととして備えることが大切だと思っています。

壁谷 ローズガーデンでの体験から、復興の意味を考えさせられました。何もなくなってしまった被災地に花を咲かせて、再生し、復興していく様子と、被災地をそのまま残して、維持することによって3・11の風化を防ぐ様子の両方を視ることが出来ました。

小川 被災地を生産の場にしていく「復興」と、被害の状況をそのまま遺すことで、教訓として未来をつくっていくという双方向の在り方を今回のフィールドワークで感じてきたんですね。それぞれの意味合いは違いますよね。意味の違いをどんなふうに捉えましたか。

竹中 震災被害をそのまま残す価値は後世に語り継いで、次は「こうしない」という教訓とすることだと思います。一方のローズガーデンは災害によって何もなくなった土地で、人間の営み、生産性を再生して、新しい価値を生み出すということだと思います。ローズガーデンの方が、どちらかというと過去にとらわれていないかのように見えますが、そもそも災害による被害によって、全てがなくなってしまったから再生せざるを得なかったわけですし、どちらも大切な意味があることだと思います。

壁谷 被災状況をそのまま遺すこと、伝えることで教訓とすることも、新しく造りだすことも、どちらも意味があると思います。

小川 今回のフィールドワークでは、人と出会ったり、現場に行ったりと、普段の授業とは形態が違ったわけですが、実際に体験してみて、このような授業はどうでしたか？

竹中 普段では体験できない体験ができました。体験して考えてみることは重要なことだし勉強になると思います。

壁谷 現地に行く体験型の学びで意味深いと思いますが、現地に行って集中して学んだことが良かったのかなと。もしこれが週に1回とか、月に1回とか頻繁だと厳しいかもと感じます(笑)。ルーティンになると自分の中で、どれだけ受け止められるかは自信がありません。

小川 今回のフィールドワークでの刺激を受け止めることができたのは、問題意識やモチベーションがあったからですね。フィールドワークに行ってみようと思った時がスタートだったんですね。今日は、石巻でのフィールドワークの様子を教えてくださいました。現地でのボランティアの様子や地域連携・貢献のお話をもっと伺いたかったのですが授業の時間が迫ってきたので、終了します。



神奈川工科大学の地域貢献

地域から学ぶ その2

神奈川工科大学の周囲のこと、「あつぎ」について知る…

基礎・教養教育センター『人文社会科学演習』の取り組み

担当:師玉真理教授

神奈川工科大学の周りには、縄文土器や化石の発掘現場（本場にすぐ近くです）や由緒ある寺院、徳川家康の朱印状を保管する神社、国の重要無形文化財指定の相模人形芝居等々、見どころがたくさんあります。気付かずに卒業される学生が多いと思います。そこで、あつぎ郷土博物館の学芸員3名のご協力をいただき、明治から大正期に厚木で農民文学者として活躍された「和田傳」の文学からみたあつぎ、農具からみたあつぎの講義、及び博物館の見学、解説をいただき、受講学生との意見交換を3回にわたって行い、受講学生にとって「あつぎ」を深く理解し、郷土の魅力を知る機会を得ることが出来ました。受講学生は、情報学部3学科から4名が参加しました。



学芸員の方から厚木の作家・和田傳のお話を受ける



あつぎ郷土博物館を見学、郷土史を学ぶ

神奈川工科大学の地域貢献

地域から学ぶ その3

臨床工学科

『医用機器概論』

担当:山家敏彦特任教授

神奈川県共生社会アドバイザーの高野元さん(ALS, 人工呼吸器使用)の日常生活とITによるコミュニケーションのお話、学生とのディスカッション。



TOPICS

トピックス

01 近隣の小学校、中学校、高等学校との協働

2023年7月21日

厚木愛甲地区小学校安全部会の先生たち(31名)と災害対策のワークショップ(ファシリテーター:高嶋渉准教授)を行いました。

2023年9月2日

厚木北高等学校学校運営協議会「厚木北地区における防災検討会」を本学で行いました。

2023年9月3日

厚木市総合防災訓練「子中自治会」避難訓練 約100人参加(自治会会員、睦合中学校生徒70名、市役所職員など)参加者全員に当大学備蓄食品「尾西のえびピラフ」を配布



2023年9月3日
子中自治会避難訓練
厚木市立睦合中学校
生徒70名参加



2023年11月27日
KAIT広場
厚木市立三田小学校
2年生110名見学



2023年11月27日
図書館
厚木市立三田小学校
2年生110名見学

2023年11月6日

厚木北高等学校にて防災についての講演(講師:久保田昌彦理事)を行いました。

2023年11月27日

厚木市立三田小学校2年生110名が見学に来られました。



地域連携・貢献センター



CENTER for REGIONAL COOPERATION
and CONTRIBUTION

神奈川工科大学の地域貢献

地域から学ぶ **その4**

ロボット・メカトロニクス学科

ユニット:ヒューマンサイエンスの取り組み

担当:三枝亮准教授

2023年11月24日の神奈川県との協働授業では、重い障害のある人がバイクを楽しむ補助器具の紹介と実際の活動のお話(サイドスタンド・プロジェクト)、学生とのディスカッションを行いました。



神奈川工科大学の地域貢献

地域から学ぶ **その5**

ロボット・メカトロニクス学科

共生社会実践への学生参画

担当:三枝亮准教授

神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ憲章」の理念に基づき共生社会を自分事として考え行動する『共生社会実践セミナー』を2024年12月に開催しました。当大学三枝研究室ゼミ生は継続的にこの事業に参画していますので、これまでの活動報告を行い、参加5大学学生との意見交換、障害当事者との交流をしました。

神奈川県本庁舎で行われたセミナー・交流



02 子どもたちへの科学教育

ロボットプログラミング教室、おもしろ理科教室、流れのふしぎ科学教室等を厚木市、愛川町、富士市、裾野市、寒川町、伊豆市、海老名市等で行いました。

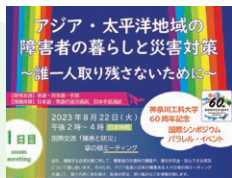


03 健康福祉開発支援センターによる愛川町生活習慣病予防教室がスタートしました
▶2023年7月25日

04 国際交流「障害と防災」草の根ミーティングを開催しました
▶2023年8月22日、24日



2023年8月24日
アジア地域のシンポジストの皆さん



08 シティネット事務局長平田ケンドラ氏と意見交換会を行いました
▶2023年11月15日



シティネット(アジア太平洋都市間協力ネットワーク)とはアジア太平洋地域の都市問題の改善・解決を目指す非営利の国際組織です。「防災」、「SDGs」、「気候変動」の3つの分科会に分かれて活動しています。

2023年11月15日
ケンドラ氏、国際センター長、地域連携災害ケア研究センター長、研究推進機構事務局長、スマートハウスセンター長、地域連携・貢献センター長

09 厚木市障がい者協議会 防災プロジェクト研修を共催しました
▶2023年11月17日

2023年11月17日
先進技術研究所にて大学の災害対策紹介



05 スマホを持ってあつぎを歩こう
▶2023年10月7日(回顧編)
▶2023年11月25日(防災編)



2023年11月25日 学生によるスマホのサポート



2023年11月25日
地震と竹林について
解説と現地確認

10 ご希望の地域の方(約330人)が大学見学会に参加されました
▶2023年11月26日



2023年11月26日
市民講演会 K3号館5階講堂



2023年11月26日
大学見学会 KAIT広場

06 医療機器が必要な方のための災害時の電源確保「やってみよう、電気自動車からの給電」
▶2023年10月19日

主催: 平塚保健福祉事務所、共催: 神奈川工科大学地域連携災害ケア研究センターで難病患者在宅ケア従事者研修を行いました。



2023年10月19日
山家先生のデモンストレーション

11 学生と地域の方で消防署の応急手当講習会
▶2023年12月1日、5日、13日、18日



消防署の応急手当講習会
58人が受講(学生52人、教職員1人、地域の方5人)

07 行政機関、民間企業、大学、自治会等によるミーティングを行いました
▶2023年10月27日

行政機関、民間企業、大学、自治会等による「地域連携災害ケア研究センター(地域機関との拡大)ミーティング～要配慮者を取り残さない災害ケアに向けて～」を行いました。



2023年10月27日
地域の企業、厚木市役所、自治会、教職員、学生

12 文部科学省のタイプ3、タイプ2、タイプ4に採択されました

文部科学省の「令和5年度 私立大学等改革総合支援事業」のタイプ3「地域社会への貢献」に採択されました。併せて、タイプ2「特色ある高度な研究の展開」とタイプ4「社会実装の推進」が採択されました。